

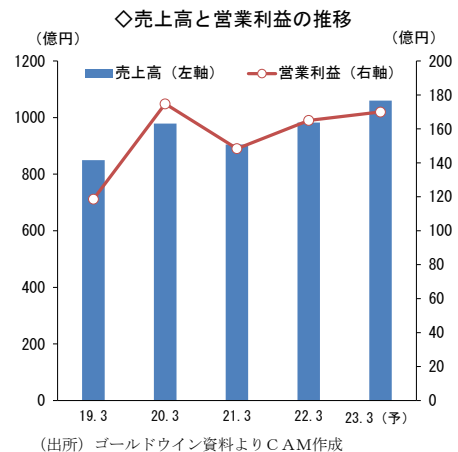
企業ニュース ゴールドウイン

(東証プライム: 8111) <https://www.goldwin.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

新素材の展開拡大に注目

スポーツウェアやカジュアルウェアの製造・販売を手掛ける。主な取り扱いブランドは「ゴールドウイン」「ザ・ノース・フェイス」など。22.3期の事業別売上高構成比は、パフォーマンス35%、ライフスタイル58%、ファッション7%。2021~2025年度の中期経営計画では、売上高1,250億円、営業利益210億円を目指し、成長余地の大きいライフスタイル市場で強固なポジショニングを確立する期間としている。また環境負荷低減素材の使用にも積極的で、現在はスパイバー社と共同開発した、微生物を用いた発酵により作られる人工たんぱく質素材「ブリュード・プロテイン」を使用した商品開発を進めている。商品生産量はまだ限定的だが、同素材の量産化による展開拡大が期待される。



23.3期は販売回復を見込み増収増益の計画

22.3期の連結業績は、売上高が982億円、前期比9%増、営業利益が165億円、同11%増。売上高はオミクロン株の感染拡大による店舗休業により期初計画に届かなかったが、販管費抑制と韓国でザ・ノース・フェイスを展開する持分法適用関連会社の好調により、営業利益以下の各段階利益は同計画を上回った。また、必要なものを必要なだけ売る実需型ビジネスが浸透しつつあり、計画的な生産が販売ロス率の低下や値引き販売の抑制につながっている点は好印象。

23.3期の通期会社計画は、売上高が1,060億円、前期比8%増、営業利益が170億円、同3%増。外出機運の高まりにより国内外で販売が回復するとみている。パフォーマンス分野の売上高伸び率が保守的な印象だが、会社は最低限達成したい目標としており上振れが期待できよう。利益面はイベントの開催などによる経費増のほか、ブランド価値強化、物流拠点や基幹システムなどの基盤整備といった成長投資を予定しているため、小幅な増加にとどまる見込み。なお、原材料高への対応として2022年の秋冬商品から価格の見直しを行う方針。当社商品は価格面ではなくデザインや機能の面が評価されていることから、値上げは受け入れられるとみられる。

[株価動向・投資判断]

安定した業績成長に加え、環境に配慮した取り組みも注目されよう。

<8111 ゴールドウイン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	90,479 (▲8)	14,838 (▲15)	15,984 (▲2)	10,734 (▲0)	236.6	記70.00
22.3	98,235 (9)	16,501 (11)	20,285 (27)	14,350 (34)	316.3	85.00
23.3 予	106,000 (8)	17,000 (3)	21,400 (5)	16,000 (11)	352.7	90.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2022/6/3)	8,280 円
年初来高値 (高値日)	8,340 円 (22/6/3)
同安値 (安値日)	5,610 円 (22/3/8)
予想 P E R (23.3 予)	23.5 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,398.6 円
P B R	5.92 倍
予想配当利回り	1.09 %
(1株当たり配当金90.00円)	
R O E (22.3)	24.7 %
発行済み株式数	4,745 万株